

2 東北地方養蚕農家の住生活（第4報）

東北大学 ○佐々木嘉彦
福島大学 高橋キヨ子
岡村 益
辻 英子
小野 栄子

本報告は、東北地方養蚕農家の一つの型を代表する、福島県伊達郡柳河町栗野地区における養蚕農家を取りあげ、その間取り及び住み方が、最近どのように変化しているか、それはどのような要求にもとづくかをみたものである。

間取りは、いろいろな型から P₅ 型（第1報、家政学雑誌 Vol. 9. No.2 参照）に集中する傾向が顕著で、住生活における、養蚕と生活との矛盾をさける方向に動いている。しかしその住み方からみれば、養蚕上、接客上の便宜に力点がおかれていて、家族生活はそれらの充足の範囲内で向上がはかられているにすぎない。

平家建から2階建へ、また2階部分の拡大をはかる傾向も甚だ強く、主として養蚕上の要求を反映している。その他、縁側の変化、ザシキや茶の間のイロリの変化、炊事空間の変化等が認められたが、養蚕ないし農業経営及び接客中心の変化といわなければならなかった。むしろ、家族生活上の変化がないわけではない。若夫婦の寝室は次第に確保されるほか、個人室化の傾向も、強いとはいえないにしても認められた。